

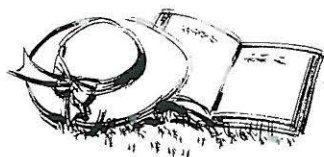


Title	健康なアフリカ社会をめざして
Author(s)	中村, 安秀
Citation	目で見えるWHO. 2011, 47, p. 6-8
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86767
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



健康なアフリカ社会をめざして

Towards Healthy Society in Africa

社団法人 日本WHO協会 理事 中村 安秀



Yasuhide NAKAMURA

1952年2月生
東京大学医学部医学科卒（1977年）
現在、大阪大学大学院 教授、
人間科学研究科 グローバル人間学専攻
NPO法人 HANDS 代表理事
TEL 06-6879-4033
FAX 06-6879-8064
E-mail : Yastisch@aol.com

1 世界共通のゴール、ミレニアム開発目標

1990年の「子どものための世界サミット（ニューヨーク）」以来、90年代には、「地球環境サミット（リオデジャネイロ、92年）」「国際人口開発会議（カイロ、94年）」、「世界女性会議（ペキン、95年）」など世界規模での国際会議が立て続けに開催されました。これらの国際会議での重要な争点、すなわち、環境、人権、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、HIV/エイズ、開発と貧困、ジェンダーなどは、いずれも地球規模での健康問題と深く関連していました。いいかえれば、人びとの健康を守るためには、医師や看護師といった狭義の保健医療分野の専門家だけでは対処できない現実と直面したということもできます。

表1 ミレニアム開発目標
(Millennium Development Goals : MDGs)

- 1 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 2 普遍的な基礎教育の達成
- 3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
- 4 乳幼児死亡率の削減
- 5 妊産婦の健康改善
- 6 HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止
- 7 環境の持続可能性の確保
- 8 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

2015年までに、191の国連加盟国は
上記目標を達成しなければならない

2000年9月に採択された国連ミレニアム宣言では、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッド・ガバナ

ンスなどを課題として掲げました。そして、90年代の多くの国際会議やサミットで提唱された開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめたものがミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）です。乳幼児死亡率の削減、妊産婦の健康改善、感染症対策だけでなく、基礎教育、ジェンダー、貧困、環境対策など多くの項目が、WHO（世界保健機関）の活動と密接に関連しています。

ミレニアム開発目標は8つの目標を掲げ、そのうち目標4、5、6の3つが保健医療と直結しています。教育、環境、貧困というグローバルな課題でさえ、1つの項目にまとめられていることを勘案すると、生存や健康が人類にとっていかに大きな意義をもつかがわかります。母子保健については、「2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる」、「2015年までに妊産婦の死亡率を4分の3減少させる」といった具体的な目標値と期限が設定されています。

2 アフリカでのカウントダウン

いま世界は、ミレニアム開発目標のカウントダウンに入っています。2015年までに残された時間は、限られているからです。とくにアフリカの多くの国においては、WHOの活動と直結している目標4（乳幼児死亡率の削減）、目標5（妊産婦の健康改善）、目標6（感染症対策）の達成が危ぶまれています。

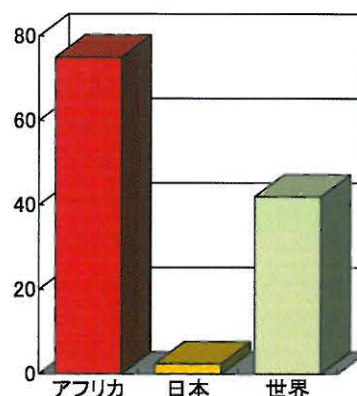


図1 乳児死亡率の比較（2009年）
出生1000あたりの死亡数（ユニセフ子ども白書2011）

乳児死亡率（出生 1000 当たり、1 歳未満の死亡数）でみると、日本は 2.4 ですが、アフリカは 75。日本の 30 倍以上になります（図 1）。成人の HIV/エイズ感染率は、アフリカでは 3.9%。東部・南部アフリカでは 7.2%（成人の約 14 人にひとり）にのぼります。日本と比べると格段の違いですが、世界全体と比較してもアフリカの抱える深刻さが明らかです（図 2）。

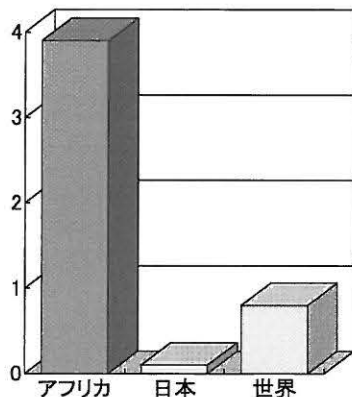


図 2 HIV/エイズ感染率の比較（2009 年）
成人（15-49 歳）の推定感染率 (%)（ユニセフ子ども白書 2011）

グローバルな開発課題の多くは、アフリカが抱える諸問題と重なっています。アフリカ大陸は、世界で最も貧困人口の割合が高く、紛争や飢饉、感染症（特に HIV/エイズ、マラリア、結核など）、気候変動、さらには累積債務など困難な課題が集中し、深刻な課題を抱えた地域です。日本は、アフリカ開発会議（TICAD）などをはじめとして、アフリカに対して積極的な支援を行ってきました。2008 年 5 月には第 4 回アフリカ開発会議が横浜で開催され、保健医療に関する課題は大きな関心と呼びました。医療や保健に従事する人材を育成し、子どもたちの命を救う取り組みを強化することが決議されました。

3 アフリカの希望の星

2006 年に日本政府は、野口英世没後 80 年を記念して、アフリカの医学研究および医療活動分野において顕著な功績を対象とする野口英世アフリカ賞を創設しました。第 4 回アフリカ開発会議において、アフリカに関する医学研究及び医療活動を顕彰することにより、アフリカでの感染症などの疾病対策や健康増進に寄与したいと考えたからです。

この野口英世賞の第 1 回受賞者のひとりが、ミリアム・ウェレ博士です。アフリカの人々からママ・ミリアムと親しみを込めて呼ばれている彼女は、長年にわたりコミュニティとともに、子ども、女性、HIV/エイズの分野

で活躍し、アフリカ大陸の希望のシンボルとして活躍されてきました。

ケニアで深刻な保健・社会問題になっている HIV/AIDS の対策では、若年層、売春婦、同性愛者などとの直接対話を通じた先駆的な取り組みを実施してきました。ケニア国家エイズ対策委員会委員長としても、強力なリーダーシップを発揮し、ケニアの HIV 感染率や AIDS による死亡率の減少につなげています。

さらに、NGO 活動として、アフリカ最大の保健 NGO のアフリカ医療研究財団（AMREF）の理事長として、またウジマ財団の共同創設者および総裁として、市民社会の力を活用した農村部への医療サービス拡大に貢献しています。ウジマ財団では、若者こそが地域の発展の大きな鍵となるというミッションの下、若者のエンパワメントに焦点を絞り、2 万人以上の若者グループに研修、職業訓練の機会を提供し、保健医療、平和等の問題に取り組んでいます。

4 幻の第 28 回日本医学会総会

アフリカの抱える問題の深刻さを認識しつつ、同時にウェレ博士のようなアフリカのすばらしい知性に触発され、第 28 回日本医学会総会においてアフリカをテーマとしたイベントを企画しました。日本医学会総会のメインテーマは、「いのちと地球の未来をひらく医学・医療」でした。日本 WHO 協会として、この趣旨に全面的に賛同し、世界保健デーにあたる 2011 年 4 月 7 日に、博覧会会場（東京国際展示場）においてイベントを開催することにしました。日本医学会総会は明治 35 年以来 4 年に一度開催されてきた日本最大の医学系のイベントで、参加来場者総数は 35 万人が見込まれていました（3 月 11 日の東日本大震災を受けて、日本医学会総会のイベントは中止となりました）。

日本 WHO 協会イベントのテーマは、「アフリカの健康、水、いのち」。WHO を支援してきた日本 WHO 協会の活動を紹介するとともに、日本の NGO/NPO、企業と国際機関の連携、青年海外協力隊の活動などを、ビデオや音楽などの映像を多用する形で紹介したい。関係者で集まって、何度も綿密な企画会議を開きました。最終的にプログラムが決定し（表 2）、進行台本やポスター（この冊子の裏表紙に掲載）も出来あがっていました。

地球の未来をひらくためには、医学や医療が果たす役割は大きい。しかし、医療専門職だけの関与では、アフリカをはじめ途上国の人びとのいのちや健康を守ることにはできません。日本医学会総会の博覧会を訪れた多くの市民や医療関係者の方々とともに、企業、NGO、政府機関、国際機関などの幅広いネットワークを構築し、

表2 日本医学会総会イベント案

第28回日本医学会総会イベント

(日本WHO協会主催)

「アフリカの健康、水、いのち」

(内容)アフリカで取り組んでいる日本からの支援活動を映像や音楽によって紹介する。

- ① 世界保健デーとWHO(日本WHO協会)
- ② エイズ予防啓発—モザンビーク(青年海外協力隊)
- ③ 100万人の手洗い—ウガンダ(ユニセフ・サラヤ㈱)
- ④ HANDS to HANDS—ケニア(NPO法人HANDS)

私たちが一歩でも踏みだせるような、明日からの行動につながるイベントをめざしていました。

この幻に終わった「アフリカの健康、水、いのち」のイベントを、「目で見るWHO」の紙上で再現したいと思います。私たちの思いに賛同いただいた青年海外協力隊事務局や隊員の方々、サラヤ株式会社、NPO法人HANDSの皆さまには、この場を借りて厚く御礼申し上げます。読者の皆さまには、私たちのアフリカへの熱い

思いを汲み取っていただき、できることから一歩ずつ、健康なアフリカ社会をめざしたさまざまな活動にご協力いただけると幸いです。



広告

For Your Life Care

プロアシストは、
センシング・ネットワーク・情報処理技術で
みなさまの健康に貢献してまいります。



「創造」すること、それが私たちのDNA

株式会社 プロアシスト

Proassist

〒541-0043 大阪府中央区高麗橋 2-3-9 星和高麗橋ビル 1階

TEL : 06-6231-7230 FAX : 06-6231-7261

URL : <http://www.proassist.co.jp>